

乳頭温泉周辺 石黒山、笹森山、乳頭山

——坂村、池田、中村

【日時】2009年12月26日(土)～29日(火)

【メンバー】中村(L)、手嶋、坂村、池田、T氏(他会)

昨年に引き続き今年も乳頭温泉に。昨年から持ち越したルートと、あまり記録を見ない鶴ノ湯周辺の山を計画してみた。晴れることはなかったが、前夜の移動も含め比較的穏やかな日々が続き、山スキーにはもってこいの毎日だった。

【1日目】12月26日(土)：鶴ノ湯～石黒山 [曇⇒雪]

交代でずっと運転しながらも、田沢湖に到着する頃には夜が明け始める。やはり遠い。コンビニで朝ごはんを食べ、昨年と同じ某所に幕を張る。前線が通過する予報であるが、高曇りの天気。腰が痛い手嶋さんと、睡眠不足の池田さんをテン場近くの温泉に残し、3人で石黒山に行く。

鶴ノ湯の駐車場に車を止めさせてもらい赤沢にそって歩く。トレースはない。一旦林道に出て再び沢沿いを歩く頃、雪が強くなってきた。予報通り天気が悪化しているのだ。

堰堤を越え、登山道伝いに右岸を歩くが杉林のヤブがうるさい。二股の少し上部で、沢がやや深くなり、対岸に渡る。かろうじてスノーブリッジがあるが、私が踏んだとたん崩れてしまう。川幅は50m程度なので、スキーのまま無理矢理渡れた。

しばらくは沢筋に行くが、歩きにくくなってきたので、尾根に上がる。藪は相変わらずうるさい。しかし標高800mで植生が杉林からカラマツに変わり、一気に明るい森となった。標高も上がったこともあって、雪も十分になってきた。

その後もほぼ登山道伝いに登る。950mくらいから尾根が広くなり、さらにブナも現れ、すばらしい斜面となる。12時半に山頂に到着。

滑りは、上部800mまで(標高差300m)は斜度雪質とも快適で楽しめた。しかしそこから下の杉林に突入すると、ヤブがうるさく



山頂のブナをバックに

思うように滑れない(標高差150m)。ツルに板を引っ掛けて転倒する人まで現れる。

行きで渡ったスノーブリッジは完全に無くなっていた。板を外して渡る。山行中、小雪～雪であったが、登山口に到着するには、みぞれに変わり、雪山なのにウエアが濡れてしまった。こんな時にも某所のテン場は便利で、近くの温泉施設でウエアを完全に乾かすことができた。

天気が悪くなったり、ヤブが濃かったりと、登りの途中で何度も引き返そうかと思ったが、800mから上は快適な斜面だった。諦めず登ってみるのもいいものです。(中村記)

【2日目】12月27(日)：旧乳頭スキー場～笹森山 [曇]

今日は全日程のうち、一番天気がよい予報だった。といっても晴れの予報ではなく、せいぜい「雪は降らないだろう」といったところ。けれど気温があまり低くなかったので、晴れない方がむしろパウダーを滑るためには都合が良かった。

旧乳頭温泉スキー場前の駐車場で身支度を整え終わったのは9時半だった。行程が長くないので遅めに起きたためこんな時間になってしまった。まずは旧乳頭温泉スキー場斜面をひと登り。雪は深くないが、ラッセルがあるので一列で登る。傾斜を登りきると乳頭山が見えるはずだが、今日は曇りのせいで見えなかった。ゲレンデを抜けて森に入ってから登山道沿いに歩く。多少の傾斜はあるものの、概して緩やかな登り。登るのは楽しいが、この傾斜で滑れるのだろうかと思う。ただ、ブナの林はとても美しく、皆がところどころ



樹林帯

で感激の声を上げていた。

二度目の休憩のとき、手嶋さんがリタイアした。通常ならありえないが、この山行の一週間前に腰を痛めており、ザックを背負って歩くのはやはり腰へのインパクトが大きいようだった。「しょうがねえな、付き合うよ」とTさん。二人で下山して、お酒を飲みながら皆の帰りを待つそうだ。お酒飲みたさの仮病疑惑が持ち上がる。

中村さん、池田さん、私の三人になってから山頂付近まで2ピッチかかった。森林限界を超えると目の前に急に崖が現れた。これは登れないぞと思っていたら、笹森山山頂は左に回り込むのだと分かりホッとした。山頂付近までの登りは急で、方向転換に苦労した。山頂が近くなるとハイマツが混んできて、いよいよスキーを履いたまま登るのが難しくなったので、スキーを置いてツボ足で山頂ま

で行こうとしたら雪面がカリカリでブーツが食い込まず、登りはここまでとした。13時20分だった。

ようやくの滑り。山頂付近は雪がクラストしていたので転倒を恐れてゆっくりと様子を見ながら滑った。しかし滑ってみるとターンし易く、「なんだ、ここ気持ちいいぞ」と気づいた頃には大分滑り降りていた。ああ勿体無い…。今日一番いいとこなのに…。ほどなくして傾斜がなくなり、森の中に入った。パウダーだが、なにしろ緩いので滑ったり歩いたりした。本日2番目に楽しかった滑りは旧乳頭温泉スキー場だった。

旧乳頭温泉スキー場前の駐車場で先に下山した二人が迎えてくれた。出来上がっているかと思いきや、持ってきていると思っていたお酒は忘れてきていたらしい。お酒が飲めなかったとダダっ子たちが訴えている。はいはい、帰って飲みましょう。

(坂村記)

【3日目】12月28日(月)：孫六温泉～乳頭山(田代平山荘まで) [曇⇒雪]

3日目は男女(おなめ)岳往復の予定でしたが、リーダー以外のメンバー全員の根回しにより、つつがなくサブルートに変更になりました。

天気は曇り。入山口の孫六温泉からすでにトレースがあります。細い木が茂る林を抜け、小さなV字を滑って登って渡る頃には、もみの木を思わせる太くて高い深緑の森になっていました。モンスターと呼ぶにはまだ木についた雪が少ないですが、このエリアの森はこういうものなのかもしれませ



樹林帯

ん。湿原に近づくと、山頂が見えてきました。平たい湿原の向こうに、緩やかな、でも十分に大きい乳頭山がありました。大きな山を見るのは久しぶりでした。少なくとも見た目には、尖るでもなく、岩肌が露出するでもない、「たおやか」という表現が似合う乳頭山は、時間さえかければ登れるような気にさせてくれました。

・・・とは言っても時間がない！風も強いし。とりあえず田代平小屋まで行って考えようか……。2階建ての快適な小屋に1階から入ると、リーダー以外のメンバーのあうんの呼吸により、そのまま引き返すことになりました。「なりゆき」という偉大な力に逆らってはいけません。

帰りは森の中を自由に滑り、V字を登り返し、あっという間に下山口へ到着。その



晩は坂村さん御用達のステキなペンションに泊まり、想像を超える夜を過ごしました。

(池田記)

【4日目】 12月29日(火)：田沢湖スキー場 [曇⇒雪]

前夜は、坂村さん馴染みの宿。おいしい料理をいただき、ストーブの周りであたたかた寝をしてしまうと、すっかりゲレンデモードに。雪もコースも最高のゲレンデでくたくたになるまでパウダーを滑り、帰路に就く。(中村記)

【地形図】 秋田駒ヶ岳

【行程】

1日目：鶴ノ湯(9:26)～石黒山(12:27/12:46)～鶴ノ湯(2:06)

2日目：旧乳頭スキー場(9:12)～笹森山山頂直下1370m地点(1:17/1:26)～旧乳頭温泉スキー場(2:52)

3日目：蟹場(9:30)～田代平山荘(12:11/12:34)～蟹場(2:01)